

一般社団法人全国専門学校情報教育協会(研修委員会)  
平成25年度 研修ニーズアンケート  
理事長・校長

●調査時期  
平成25年5月20 日～平成25年5月31日

●発送数 84 件

●回答数 20 件

●回答率 23.8 %

●協力校数 20 校

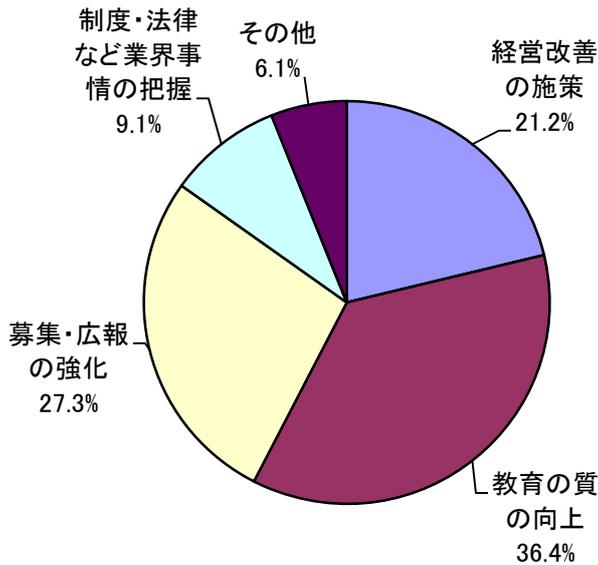
問1. 学校経営上の課題として、緊急性が高いと感じているものに○を付けてください。

S.no	項目	回答	%
1	経営改善の施策	7	21.2%
2	教育の質の向上	12	36.4%
3	募集・広報の強化	9	27.3%
4	制度・法律など 業界事情の把握	3	9.1%
5	その他	2	6.1%
	合計	33	100.0%

問1 その他

1・社会構造変化の理解

2・専門学校教育理解度・注目度向上策



問4 現在困っていることや、抱えている問題・課題等がございましたらお書きください。

S.No	問題・課題等
1	学生募集。
2	教員の平均年齢が高く、年齢構成が逆ピラミッド型になってしまっており、若手教員の育成が急務と感じています。
3	高校の情報科目担当教員の情報興味づけ力の向上。
4	専門学校としての危険管理(広報、保護者、卒業生、就職先など本校にとりまく人達とのよりよい有効関係をきづく経営戦略など)。
5	東南アジア地域教育機関との連携。
6	ネット社会における広告媒体の変化に早く対応できない。
7	労働契約法改正による無期労働契約への転換 人件費削減のため、教員と職員(広報・就職)について、「契約教職員」を増やしてきた。5年後には本人からの申し出があれば無期雇用となるため、対策が課題となっている。

問2 学校経営上の課題を解決するために、どのような研修・セミナーがあったら良いと思いますか？

S.No	研修テーマ	内容	形式	対象者	日数	実施時期
1	学校評価	第三者評価のあり方 特にカリキュラム内容の点検評価	事例発表	学校長 管理職	1日東京 大阪2会場	6月
2	自己点検・自己評価	自己点検・自己評価ガイドラインの活用 法	講義	経営者	1	
3	学校法人における権限委 譲と部門別採算	弊学園では、設置する学校毎の独立採 算経営制に踏み切ったが、なかなか思 い通りにいかない。独立採算制にする と、各校が自校の利益のみを追うよう になって困る	・経営に関する 検討会（自己 参加型グルー プディスカッ ション	各校幹部教職 員	2	夏休み
4	学生希望力強化	・ソーシャルメディアの有効活用 ・リカレント生への有効なアプローチ	成功例の発表 etc	広報担当 教員 職員		夏休み O R 冬休み
5	学校評価ガイドラインにつ いて	学校評価ガイドラインの勉強会	講義	管理職	1	7～8月
6	教育の電子化	専門学校の通信制課程設置に伴う電 子教材と教育体系作りについて	文部科学省が 挙げている通信 生課程に対応で きるレベル	教員	1～2日	8月
7	経営・運営事例発表会	経営面での成功事例紹介、今後の学校 経営・運営に関するディスカッション	自己参加型グ ループディス カッション	経営者	7日	2月
8	先進的な教育を行っている 大学・専門学校等の教 育機関の視察、意見交換					
9	募集広報の強化	学生より多く集めるための戦略		広報の担当者	1日	2月
10	学舎内のセキュリティ全般	BYODは学校にとって必要なのか、必要 だとしたらどこ承許のか	座学	会員校	1～2日	夏期
11	教員の資質向上	特に非常勤講師の教育力向上対策		校運営 責任者	1日	8月
12	秋の新学校種	秋に文科省より発表された後で	講座 講義	経営者	1.5日	秋以降
13	専門学校教育と大学校教 育の違い	事例紹介	講演	高校教員	半日	5月or 8月
14	授業力向上	基礎・基本定着させるための方法論	情報収集型	職員	1日	8月

S.No	研修テーマ	内容	形式	対象者	日数	実施時期
15	中間管理職研修会	中間管理職の基本職務を学ぶ		中間 管理職	1～2日	
16	少子化が進むなかでの募集広報のあり方について	少子化 傾向とはいうものの、そのスピードと具体的な数値が把握できていないという現状のなか将来の見すえての取り組みがあれば知りたい	情報収集型			
17	社会状況にあった専修学校としての学校(学園)運営	自己点検自己評価 第三者評価 就業規則 教職員の評価制度など	講義形式 (例発表会)	管理者	1～2日 日間	
18	通信制	通信制学科導入事例研究	講義	経営者	1	
19	教育の資質の向上	自己点検評価特に学校関係者評価のポイント今後への対応	成功例の発表 etc	管理職員 職教員 教務事務責任者		夏休み 冬休み
20	効果的な学生募集(成功事例集)	学生募集に成功している専門学校の事例発表とディスカッション	グループ	管理職	2	7～8月
21	企業でいう経営企画的業務を担当する人材の不足育成研修会					
22	語学教育	iPadなどを学内で使用するための具体的な方法	座学	会員校		
23	発達しょうがい児への対応	基本的な対応と外部機関との具体的な連携のあり方	情報収集型	職員	1日	
24	異分野課程併設の経営上の利点について	少子化で四大志向が顕著は現状の中で戦略としてどう考えるか	情報収集 意見交換			
25	あらたな技術の泉温課程が設置された場合の影響について	第三者評価を受け新たな技術の専門課程の許可を受けた課程(学校)があった場合の対応の仕方や広報での広げ方	講義形式	広報管理者	1日間	

問3 視察してみたい場所(国内外)、内容の概略、適当と思われる期間(日数)を教えてください。

S.No	視察地	視察内容	何月頃	期間
1	ベトナム	高等教育と企業人材育成の現地調査。		6日
2	インドネシア	現地学生の留学事情。	8月	3～4
3	オランダ	小中高等教育における職業教育の複線化事例。		
4	北欧(スウェーデン・フィンランドなど)	教育に特に注力し、成功している学校の視察。	2月	7日
5	金沢	語学教育などにおける活用の現場。	夏期	2～3日
6	不問	デュアル教育現場。	夏～秋	1～5日
7	米国など	最新技術、教育機関。		5～6日
8	ベトナム・タイ	現地日本語学校の状況。	2,3月	3～4